

本時に至るまでの授業の実際

第一次

- 1時 ソプラノリコーダーでリズム即興演奏と3音即興演奏に取り組む
基本的な音符の知識を確認する。 …… 10月6日(月)
- 2時 ソプラノリコーダーでリズム即興演奏と3音即興演奏に取り組む(以後,毎時間の導入で実施)
基本的な音符の知識を確認する。 …… 10月9日(木)

リズム即興演奏

4分の4拍子で2小節分の長さ(2小節目は付点二分音符と四分休符)の4拍のリズムを即興的に自由に演奏させる。

1人 全員 1人 全員… を繰り返しながら,4~6人でリレー奏に取り組む。

3音即興演奏

4分の4拍子で2小節分の長さ(2小節目は付点二分音符と四分休符)の4拍(四分音符×4)を指定した3音で即興的に自由に演奏させる。

1人 全員 1人 全員… を繰り返しながら,4~6人でリレー奏に取り組む。



最初は,教師 全員 教師 全員… を繰り返しながら,模倣させることから始める。これは比較的好くできていた。一部にソプラノリコーダーの奏法上の問題(タンギングがうまくできない,息の量が多すぎる,少なすぎる)により,うまくいかない児童があり,個別指導を要した。次に,列などを指定して4人から6人を続けて即興演奏に取り組ませると,慣れない活動ということもあり,全員の前で吹くという緊張や自信のなさからうまく演奏できない児童があり,当初は活動が停滞した。徐々に活動に慣れ,続けて演奏できるようになってきたが,うまく拍にのれない児童や決められた拍の中にリズムをまとめることができない児童はまだ目につく状態である。

音符の知識については,リズム即興で演奏した際のタンギングからリズム呼称につなげていった。小学校低学年で四分音符をタンという呼称で学習していた経緯もあり,今回は,リコーダーのタンギングとの関連も考え,「ツー」「ツ」「ツック」などで呼称することにした。

リズム呼称法…リズムの各音を言葉に置き換えて呼ぶことによって,リズムを把握しやすくする方法。リズム呼称にはさまざまなものがある。今回は以下のように指導した。

- ツー…………… 4分音符
- ツ…………… 8分音符
- ウン…………… 4分休符
- ン…………… 8分休符
- ツーー…………… 付点4分音符
- ツ————… 付点2分音符
- ツック…………… 付点のリズム
- ツーツ…………… シンコペーションのリズム

読譜についての指導はいくらかなされていたが、音符を書くということについては、今までほとんど経験がなかったこともあり、音符の種類と長さの関係についても指導は行ったが、その理解が十分であるとはいえない。また、連衡についても、今の状態で十分な理解は不可能であると考えたので、♪ = ツック = 付点のリズム という理解にとどめ、前述の音符が付点8分音符と16分音符の組み合わせでできており、音符のはたが連衡でつながれているという理解はさせていない。

また、音高についても、児童は五線の線上か線間かということの意識があまりなく、その点についても指導を要したが、また十分であるとはいえない。これらのことについては、学習シート「音ぶをかいてみよう」(別紙資料1)を使用して、指導を進めた。

第二次

1時 「あまの川」の詩の2・3段目にグループで作曲する …… 10月16日(木)

「あまの川」の詩を紹介し、この詩に旋律をつけることを再度確認した。歌詞を朗読し、冒頭の「あまの川」の部分について、ラララミソとミミミソラの二つのパターンを示して、グループで好きな方を選ばせた。グループで選んだ学習シートを見ながら、本時は2段目と3段目の歌詞に旋律をつけるということを確認した。その上で、「3つの約束」(表1)と「つくる手順」(表2)を確かめた上で、活動に取りかかった。

「グループでつくる」ということについては悩んだところであるが、いきなり個人活動で取り組んだ際に、困難さを感じる児童にとっては、グループ活動においてどのような手順で音を音楽へと構成していくのかということがイメージできたのではないかと思う。

事前授業で取り組んだ4年1組においては、活動はスムーズに流れたのであるが、本学級においては活動に取り組むまでの説明に時間を要したこともあり、全グループが完成するまでにやや時間を要した。しかしながら、つくった旋律は工夫を凝らしたものもあり、記譜も比較的スムーズにできたと思う。

表1

つくるときの約束
・リズムはがくふに書いているとおりです。 ンツ ツツ ツツ ツツ ツツ ツツ ウン
・使う音は ミ ソ ラの3音です。
・グループみんなで協力してつくります。

表2

つくるときの手順
ラからはじめるか、ミからはじめるかを決めよう！ソからでもいいですが、ちょっとむずかしくなるかも。
出だしの音を決めたら、1段目から続けて歌ってみよう。ミ・ソ・ラを必ずぜんぶ使わなくてもいいですよ。
いいなあと思う旋律が見つかったら、リコーダーなどを使って、ミ・ソ・ラのどの音になるかをたしかめよう。
音ぶを書く前に階名を書いてもいいですよ。
たしかめた音の高さに音ぶのたまを書いていこう。
最後に、上の楽ふにあわせて、ぼうやはたをつけて、音ぶをかんせいさせよう。
完成したら、ソプラノリコーダーで演奏したり、自分の声で歌詞をつけて歌ってみよう。

第三次

1時 「あまの川」の詩の5段目に個人で作曲する …… 本時

第四次

第1時 「あまの川の歌」の発表会 …… 次時